

## 第 12 回見学会

平成 26 年 5 月 20 日

### (花王(株)東京工場と亀戸天神参拝)

数日前まで心配された天候も好転し、当日はJR亀戸駅北口に参加者27名が集合、幹事より簡単な挨拶の後歩いて見学先へ向かいました。花王(株)すみだ事業場はビルが立ち並ぶ静かな工場と言うより研究所といった感じです。事業場の建物の横を北十間川が流れ、橋の上から東京スカイツリーが綺麗に見え、川面に映っていました。残念ながら風があり、川面が波立ってすっきりした逆さスカイツリーは見られませんでした。記憶に残る風景でした。

さて見学会は午後二時より花王ミュージアムプレゼンテーションルームから開始、冷たいお茶をごちそうになりながらビデオによる会社案内や事業内容の説明を見聞しました。すみだ事業場の従業員は2,260人余り、その50%以上が研究に携わっているとのことで業種によって違いがあるでしょうが、いかに研究開発が必要かを感じました。終わって見学をガイドの石田スタッフによる東京工場からの、岩下スタッフによる花王ミュージアムからの二グループに分かれて行いました。見学中写真撮影は一切禁止されています。

花王ミュージアムではコミュニケーションプラザでスキンケアやヘアケアについて測定機器、製品を使つての説明があり、女性の化粧が下地から始まって上塗りまで随分手間のかかることが分かりました。ある男性会員は『だから女性は出かけるのに時間がかかるのか』と納得していました。このコーナーは女性向の感じがしましたが、花王といえば化粧石鹸、洗剤位の知識しかなかった私にとって、赤ちゃんの紙おむつや各種のケミカル製品を見て企業の多角化を実感しました。清浄文化史ゾーンでは古代メソポタミアから現代に至る石鹸や洗剤、化粧道具、銭湯の模型などが展示されていました。江戸時代に使われたと言う『鶯の糞』が展示してありましたが、やや鶯色をした白っぽい粉末でこれなら抵抗なく使用できると思えました。また生活様式の変遷に合わせて変化した洗剤や昭和四十年頃の団地のダイニングキッチン等懐かしく見学しました。化粧品製造の東京工場は立ち入りを厳しく制約されており、工場5階の化粧品製造工程をガラス越しに見学しました。ほとんどの工程がロボット化され、人手の省力化を痛感しました。見学が終わってそれぞれに花王の製品をお土産にいただき亀戸天神へ移動。お参りの後、記念撮影、総会での再会を約して散会いたしました。